

そのひとつは、縄文時代の小屋の制作です。足掛け3年掛けて完成した小屋は、石川県能登町にある。8年目を経た今も、大地震の被害もなく、凜として現存しています。

二つ目は、旧石器時代の丸木舟の制作です。

国立科学博物館主催の「3万年前の航海～徹底再現プロジェクト～」で、この日本列島にどうやって人類が渡ってきたかの実験でした。台湾から与那国島までを渡る丸木舟を、石斧で制作しました。実験航海では、世界最大の黒潮を一度も転覆する事なく乗り越え、225キロを45時間かけて、5人のクルーが漕ぎきりました。

これらの経験をもとに、全国ツアーで丸木舟をつくることができ、またどの様に安全な航海をするのかを学ぶ航海練習が出来たと思っています。

ここからは実際に行って来た、第2章の航海実験の結果報告を箇条書きにしてお伝えいたします。

1 この報告で1番伝えたいことは、丸木舟と言う原始的な舟に、驚くほどの優秀な機能を見付け出すことが出来たことです。

2 安定性について

舟の重さが安定性を産み出すことを、以下の結果から導き出した。

台湾から与那国島の航海をした丸木舟「スギメ」は、長さ7.4メートル、重さ300キロ、5人乗り。台湾から与那国島までの航海では、一度も転覆しませんでした。しかし、千葉県と台湾の海での航海練習(約4ヶ月間)では、ベテランのクルーが数十回転覆させている。

丸木舟「ミンナ」は、長さ9.8メートル、重さ1.3トン8人乗り。沖縄、山口、静岡、山梨での試乗体験会(3ヶ月間)で、約500名試乗した。その後、山口県の佐合島での5ヶ月間の航海練習終了まで、一度も転覆しませんでした。ほとんどのクルーが、舟を漕ぐのが初めてにもかかわらず。